

# 特集 焦点 輝き

わがまちの

— 歴史ある薩摩琵琶を現代に —

私たちの日常から縁遠い存在の「琵琶」だが、小泉八雲の怪談「耳なし芳一」といえば、盲目の僧侶とともに連想される方も多いのではないだろうか。弦をはじいて音を出す琵琶は、一説で古代ペルシアが発祥の地とされており、シルクロードを経て中国から日本に伝わった。薩摩琵琶もその流れをくむもので、室町時代、武士の教養のために作られ、しだいに語りもの的な形式を整えて内容を発展させていったとされている。見た目にも勇壮かつ優美さを兼ね備えて

おり、独特の趣を醸し出す。

そんな薩摩琵琶を市内で製作されている匠がいると聞き、さつそく自宅に伺った。薩摩琵琶を独学で復元させたのは、福山春男氏(74歳)。かつて店舗改装時の内装工事や建具製作などの仕事に携わっていた。変哲のない生活に転機が訪れたのは49歳の時。突然腰部に激痛が走り、やがて仕事もままならない状態に陥る。診察の結果、下された病名は「ウイルス性横断脊髄炎」だった。脊髄の一部が炎症を起こすことにより発生する神経障害で、原因不明の難病とされている。ときに激痛は幻覚症状まで引き起こし、福山氏を恐怖と失意のどん底へと突き落とした。発症から25年。今でも足の感覚は無く、依然として激痛が襲う。熟睡することもままならない苦悩の日々を重ねる中で、「二時でも痛みを忘れたら」という切実な思いが、器用な指を生かした竹細工や木工細工の製作へと福山氏を駆り立てた。



## 福山 春男さん 「後世に残るものを作りたい」



目立つが、中には重厚な帆船も飾られていた。細部まで忠実に再現されており、実に美しい。設計図は頭の中」と福山氏。経験が培った研ぎ澄まされた感覚には目を見張るものがある。



これまで県生涯学習フェスティバルや黎明館でのハンドクラフト展への出展の他、子どもたちに竹工芸を教えることもあったという。薩摩琵琶の製作を始めたのは、6年ほど前。「後世に残るものを」と一念発起した。まずは琵琶作りの資料集めから始めた。琵琶作りに携わっている人を見つけては、熱心に話を聞いた。主な材料となる桑の木を探し、使える状態になるまで長い月日を費やした。一本を作り上げるのに「順調にいって半年。長ければ一年以上はかかる」という。竹細工では設計図を描かずとも難なく作り上げてしまう福山氏だが、こと薩摩琵琶に関して

は、設計図にも相当の時間を割く。それだけ繊細を極める仕事なのだとうなずける。製作に使う道具も市販されていないものばかり。道具から手作りだよ」。気が遠くなるほどの入念な準備と熱意があつてこそ、こうした逸品が生まれるのだと確信した。

※ 最近では、琵琶に施すための螺鈿(らでん)細工も手掛けている。作品をより美しいものにしたという情熱が溢れ出す。「好きなことなら這つてもしなないとね」。福山氏の瞳が一層輝いた。

※ シルクロード幻想。琵琶の歴史を象徴するように福山氏は手掛ける作品を、そう呼んでいる。病によって一度は見失いかけた生きる希望。先人たちが伝承してきた美しい作品を復元することに、その光を見出した福山氏の探究心は、74歳になった今も衰えることを知らない。

※ 夜光貝などが幻想的な光を放ち、伝統工芸などに用いられる装飾技法



# 応援します 光り輝く ゴールド集落

本市では、過疎化や高齢化が進む「ゴールド集落」について、地域が抱える課題の解決と、住み慣れた地域に安心して住み続けられる地域づくりを推進することを目的に、ゴールド集落活性化条例を平成22年に制定し、さまざまな支援を行っています。

ゴールド集落活性化事業を活用して活動されている事例(団体)を紹介いたします。

## ゴールド集落とは?

全国的には「限界集落」と呼ばれていますが、毎年1月1日現在の住民基本台帳に登録された65歳以上の人口割合が50%以上の自治会の区域のことで、本市独自の呼称となっています。今年度は、昨年度より7自治会多い132自治会がゴールド集落に該当しています。



▲花植え



◀ 毎回楽しみにしている サロン

地域ぐるみで独居高齢者宅の見守り▶



■黒木地区コミュニティ協議会 (祁答院地域)  
ゴールド集落支援地区コミュニティ協議会活動補助金を活用した花植えやサロンなどを通して、環境整備と交流活動が図られ、地区の活性化につながっています。

また、防犯パトロールや独居高齢者宅への見守り活動をすることで、安心・安全なまちづくりにつながっています。

■田遊倶楽部 (西方地区の市民活動団体)  
ゴールド集落支援市民活動補助金を活用して、地元の青壮年や出身者が中心となって、休耕田の解消と子どもたちの稲作体験に取り組んでいます。



▲稲刈り



▲田植え



▲高齢者宅への赤飯配布



▲収穫したもち米で団子作り

稲作体験を通して、青少年の健全育成に役立て、高齢者の生きがいづくりにもつながっています。また、収穫したもち米で団子や赤飯を作り、地区内の高齢者宅へ配布し、大変喜ばれています。

【問合せ】本庁コミュニティ課コミュニティ・生涯学習グループ  
☎(23)5111(内線4612)